

PET-CT来月稼働

安佐市民病院 がん診療機能強化

安佐市民病院(広島市安佐北区)は10月1日から、がんの早期発見や進行の把握に役立つ陽電子放射断層撮影装置(PET-CT)を稼働する。9月には、化学療法室も拡充。国のがん診療連携拠点病院に指定されて2年半がたち、診療機能の強化が本格化する。(有岡英俊)

PET-CTは体内から、全身を一度に撮る断層撮影する機器。従来のCTなどに比べて、小さな腫瘍を見つづけることもないとい



PET-CTの導入に向け準備する放射線技師

は週1回ペースで、北口医師を中心として、がんが併発した患者たちを対象に、各診療科の医師や看護師が横断的に治療方針を取りまとめる検討会を開いている。

同病院は2010年4月、がん診療連携拠点病院に指定された。11年のがん患者数は1680人。指定前の09

年比で148人増えた。本年度はさらに南館1階の内視鏡室も1室増の4室にする。がん診療に関する一連の事業費は9億1460万円。

多幾山渉院長は「PET-CT導入や化学療法室の拡充で、有効な治療法を決めやすくなる。検討会も軌道に乗る。病院一体となつてがん治療に取り組む態勢ができてきた」としている。

クリック

陽電子放射断層撮影装置(PET-CT)

がん細胞が通常の細胞より多くのブドウ糖を消費する性質を利用した装置。ブドウ糖に微量の放射性フッ素を含む薬剤(FDG)を静脈注射して撮影。この薬剤を多く取り込んだがん細胞が画面上で光って見える。県によると、県内では既に、中電病院(中区)のほか、広島平和クリニック(中区)、広島大病院(南区)、三原市医師会病院、広島西医療センター(大竹市)が導入している。